

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 12 月 25 日
事業所名	グループホーム あいわ
事業所番号	2374900328
記入者名	職名 管理者 氏名 加藤玲子
連絡先電話番号	0561 75 5641

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念を基本に「地域の中でその人らしく生活していくこと」を実践していくために、ホームとしてどの様に取り組んでいくのかスタッフで具体的に見直している	・ホームのことばで表現し、訪問者にも理解してもらえる様に、作り変えていく方向である
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎月ミーティング時又、毎日のミーティングで「グループホームあいわ」の介護の思いが住人さんに反映されているか話し合い、理念をどの様に一人ひとりの住人さんに生かしていくか話し合っている	
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・ホームでは、どのような生活が理念の基に行われているかは、家族には訪問時等伝えている。地域住民の方には、行事等の開催時に実践を伝える程度で不十分である	・どのような取り組みが必要かスタッフで話し合い、少しでも理解してもらえる様にしていきたい
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・地域柄難しい面もあるが、オープン時より交流のある隣の方とは気軽に行き来できている	
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会、老人会等の参加はしていない。地域のボランティアの方が、定期的に訪問して下さり交流を深めている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・事業所独自の活動はない		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、スタッフが自分自身の日々のケアを振り返り、評価を受ける意義に付いて知り、意見が反映されるよう作成している。時間不足で充分とはいえない		・改善点については、取り組む必要のあることから優先して実施できる様にしていく
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、年間活動計画を基に活動報告を行い、意見交換をしてホームでの活動に生かしている。また、地域の情報を収集している		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・現在行ってはいない		・定期的な意見交換の場は出来ていないが、運営推進会議での話し合いを充実させ、サービスの質の向上に努めていく
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・ホームとして、学ぶ機会はない		・具体的に研修する機会を持ったことはないが、今後必要とする制度として学ぶ機会を作っていく
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内職員研修で、虐待の実際、防止、発見時の対応方法について、学ぶ機会があったが全員参加は出来なかった		・ミーティングでは、具体的な事例を基に話し合い日々のケアの中で防止していく様に努める

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>・全体ミーティングには、法人施設長に参加してもらい、ホームの今の状況を知ってもらい、常時法人としての理念を職員に意識付けていきたい</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>・スタッフの増員は望めないが、一人ひとりの住人さんに合わせて生活を支える、柔軟な勤務が出来るようにして対応していく</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・できるだけ、住人さんの生活環境を変えないで毎日が送れる様、引継ぎの時間を充分とっている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・研修会，学習会への参加は、計画的に実践できてはいない。法人内勉強会を中心にしているが、全員参加とまではいっていない</p>		<p>・法人内研修委員会を中心に年間計画を作成し、興味のある研修，必要とする研修を選択していき、全員のスタッフが参加できる様にしていく</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・愛知県グループホーム連絡協議会主催の研修会等を紹介しているが、勤務の都合上で順番に全員参加が出来ていない</p>		<p>・ホーム間での見学や情報交換を出来るだけ行うように計画していく</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・常時住人さんと共に居ることで、実際には短時間の休憩も取れない毎日である。軽減とまではいかないが、お互いが声をかけ合い補い合うように気をつけている</p>		<p>・何らかの形で、また1日の内で、自分の都合のつく時間で一息ついて休める環境作りをしていく</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・毎日の変化のある生活に、どの様に対応していくかでいっぱい、仕事に対する意欲やりがい充実感が実感できないことが多い</p>		<p>・資格取得を目指して学んだり、積極的にホームの行事の企画をしたりと、個人の力になる方法で、ホームの生活の質を高めていくようにしている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・体験入居をしていき、本人の様子を知ると共に、どのような生活を送りたいのか、どんな事が不安なのかを話の中から見つけ出していき、共に生活する事で、ホームが安心できる場であることを伝えていく</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・事前の話し合いを重ね、ホームが住人さんにとって一番良い生活の場なのかを家族と共に考えていく様になっている。他のサービスについても説明し、本人さんにとって最適な場と一緒に考えていく</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・今回困っている事が、ホームに入居する事で解決するのか、必要なサービスは何なのか、他のサービスでは充分ではないのかを家族と話し合っていく</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・本人と家族がホームを見学し、体験的にホームでの生活を繰り返しながら、本人の納得を得ていくことで、生活を始める様にしている。昼食を共に摂ったり、一緒に散歩をしたりと、先ずはホームの生活に親しんでもらう様にしている</p>	<p>・本人が納得せず、入居を拒む時もあったが、家族の説得で入居できた。どのような方法が本人を安心させ受け入れてもらえるのか、スタッフで今後も話し合っていく</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・住人さんとスタッフは、共に生活する者同士として出来る事でお互いが支え合う関係を作っている。スタッフが慌てて一方的にやってしまったり、本人の意思を充分確認しないで行ってしまいう事もある</p>	<p>・それぞれの住人さんにある得意な事を把握し、出来るだけ力が発揮できるようにする。また、大勢の前は苦手な住人さんには個人で対応し、どんな時でも、自分の力を出してもらおう様にする</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・訪問時一緒にお茶を飲んだり、話をしていく事で住人さんのホームでの生活の様子を知ってもらうようにする。また、日々の出来事や、あった事の実事を伝え、一緒に考えていく様にしている		・入居が長期になってきた住人さんに付いては、家族の訪問も減ってきているので、本人さんの様子を随時伝えたり、本人さんが電話をしたりして、家族との関係を保っていく
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・今まで通り家族と買い物に出かけたり、外食したりが出来るようにし、ホームに入居した事で、家族との関係が途切れないようにしている		・ホームの行事等を詳しく知らせ、参加してもらうよう声かけをしていく。入居したら任せっぱなしになってしまう家族にも、根気よく声かけをしていく
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・自宅にたまに帰ったり、ご近所の方の訪問があったり、手紙や葉書が来たりと活発ではないが継続している。美容院等も定期的に利用している。徐々に減ってきているので、本人の状態を見て続けて行くようにしている		・一方的な訪問だけでなく、住人さん自身が地域の方を訪問したり、知人に会いに行ったりが出来るように相談していく
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・気が合う合わないの関係がはっきりとしてきているが、スタッフが上手にタイミングを見て間に入り橋渡しに努めている。孤立しがちな住人さんには、できるだけスタッフが付き添うようにする		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・他の事業所に移った場合も訪問をし、必要なときは相談していく		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・毎日の生活のかかわりの中で、住人さんの思いや望みがどの様なものであるかの把握に努めている。1日に1回は個人での関係が持てるように取り組んでいる</p>	<p>・日々の行動や表情から推察したり、言葉に出た小さな思いを汲み取り、スタッフ間で共有するようにしていく。不穏な行動があった時は、何に起因するのか話し合い、住人さんの思いを常に把握する様にして行く</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居前に家族より、生活歴や今までの暮らしぶり、地域との関わり方等の情報を伝えてもらっている。入居後も家族や訪問者との話の中で、把握するようにしている</p>	<p>・訪問者が気軽にいつでも自由に訪問してもらえる様伝え、本人との話の中で、どの様な暮らしぶりであったか、更に知るよう努めていく</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・今までの毎日の生活スタイルが、ホームでも継続できる様、本人との話の中で理解していく。出来る事への意欲を大切に、失敗ないようにスタッフで見守っていき、生活する力を維持していく</p>	<p>・年齢的に消極的になったり、スタッフの対応で依存心が強くなったりするので、その時その時で、出来る事、したい事を大切に、生活する力を引き出していく様にする</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・本人の思いや家族の思いを出来るだけ詳しく聞き介護計画に反映させている。月1回のミーティングで、問題点や注意点更にスタッフが把握した本人の望み等が、随時計画に生かせる様にしている</p>	<p>・担当スタッフを中心に、介護計画を作成していてスタッフ全員での共有した計画にはなっていない。日々のミーティング時に本人の思いを伝え、住人さんの生活の中に生かしていく様にする</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・住人さんの状態に応じて、随時介護計画を見直し日々のケアの中で生かして生きたいが、現在は半年に1回の書き替えを行っている状態である</p>	<p>・介護計画が、日々のケアに生かされているか、その時の住人さんの状態に合っているか、本人の望みは生かされているか、家族の思いはどうか等、変化を見逃さないように変更していく</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活記録を大切に、スタッフが一人ひとりの住人さんの行動の情報を共有している記録を読み、その時の住人さんの状態の把握に努めている。対応を話し合う必要のあるときは相談ノート、緊急時はミーティングを利用する等、随時検討している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・同一法人のディサービスを利用していましたが、自宅での生活が困難となってきたため、通い慣れた環境と顔見知りのスタッフのいるグループホームへ住み替えた		・近隣の事業所との情報交換を更に密にし、連絡を取り合ってその時その時の要望に出来るだけ応えるようにしていく
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の警察（交番）、消防署、公民館、商店等に働きかけ、住人さんが、安心して安全に暮らし続けることが出来るようにしている		・継続して働きかけて、ホームでの活動を理解してもらい協力関係を作っていく
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・市内にある事業所と連絡し合い、ホームの活動の養子を知ってもらい、外泊等希望があったときは、必要なサービスを利用している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・2ヶ月に1度の運営推進会議を開催していく中で、地域包括支援センターの参加を得て協力関係が深まり、情報交換が密になってきた		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・毎月の定期受診は、ホームのスタッフで行っている。状態変化や緊急受診では、家族同行で受診し、その時の住人さんの状態をかかりつけ医より直接家族に伝えるようにしている</p>		<p>・定期受診時には、随時家族に同行してもらい、今どのような状態にあるのか、直接かかりつけ医より説明を受けるようにしていく</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・家族の希望で、認知症専門医の往診を受けている。往診時には生活の様子を知らせ、行動に変化が見られたときは、早めに指示、助言を受けている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・定期受診時、かかりつけ医と共に看護職員に住人さんの日頃の健康の様子や変化を伝え、助言を受けている。法人内看護職員に必要時は相談し、助言を受けている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・月1回開催する、近隣施設看護、介護連絡会「虹の会」にて情報交換し、入院時は出来るだけ早めに退院できるように相談している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・原則、重度化に対応していないが、ホームから次の生活をどのように考えていくか、状況の変化に対応して家族と早めに相談していくようにしている</p>		<p>・どの段階で次の生活を考えていくのか、十分な話し合いがスタッフ間でできていない。早急に話し合って、住人さんや家族の方が安心して生活できるようにしていく</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・原則、重度化に対応していないが、急変時には状況の変化に伴い、家族と充分話し合いを持つようにしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・新しい環境の中でも、できるだけ今までの生活環境、習慣、好みが続けられるよう、情報交換を充分に行っている。また、訪問をしていくことで、少しでも住み替えによる不安を防ぐようにしている		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・日々生活を共にしていると、慣れあいで一人ひとりの住人さんに対しての丁寧な介護が忘れられがちである。毎日のミーティングで、スタッフがお互いの言動を振り返り、住人さんの個性を大切にしたいケアができるよう話し合っている		・生活記録、業務日誌等、住人さんの様子を見ながら記録する事が多い。出しっ放しにしないよう取り扱いには充分注意していく
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・飲みたい飲み物を選んだり、好みの菓子を選んだり、本人の希望が毎日の生活の中で決めることが出来るようにしている。出来ないときでも、スタッフと共に選べるように声かけをしている		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・今までの生活スタイルを尊重し、ホームでもそのペースが保てるように、住人さんと話しをしながら生活を作っていくようにし、どんな時でも体調と相談しながら柔軟に対応できるようにしている		・自分の気持ちや望み、意思が言えなかったり、迷ったりしたときは、今までの生活の様子を本人さんに伝え、共に考えていき見守りながら、スタッフと一緒に生活を送っていく
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・着易い服になりがちだが、本人さんの好みを大切に、自分で選んで購入している。自宅で暮らしていたときの馴染みの美容院に出かけ、その人らしいおしゃれを楽しむことができるようにしている		・法人の美容室を利用するときも、本人の好みを大切に、好きな髪型が楽しめるようにしていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事のメニューは、住人さんとできるだけ話し合っ て決め、できる場面で手伝ってもらっている。自 分のできることで、ホームでの生活の役割の一 部を担ってもらおうようにしている		・配膳や片付け等、スタッフの仕事になりがちだ が、自分の食器は自分で洗う、食器を洗い場ま で持っていき、食器を重ねる等、その人のでき ることを行ってもらおうよう、声かけをしてい く
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に 楽しめるよう支援している	・誕生会、季節の行事、お祝会等で、アルコール 類を楽しむ住人さんには勧め、食事を一層楽し みのあるものとなるようにしている		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく 排泄できるよう支援している	・個人に合わせて、必要な住人さんについては、 排泄チェック表を用意し、時間を決めトイレ誘 導をしている。また、本人の意識を大切に過剰 に誘導しないよう心掛けている		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	・入浴は、できるだけ希望する時間に入れるよう にしている。二人での入浴を行ったり、休む前 に温まったり、個人の今までの習慣やくつろぐ 気持ちを大切にしている		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支 援している	・無理強いはいらないが、できるだけ日中は1日 の生活リズムを整えるためにも様々な活動を取 り入れるようにしている。不眠傾向のある住人 さんには、個で対応し、安心して休んでもら えるように工夫し、スタッフ間で情報を共有し ていく		・定期的に不眠になる住人さんに対しては、少 しでも穏やかに休む事ができる時間が持てる よう、共に部屋で過ごして安心してもらったり 、ゆっくりお茶を飲んでもらったりと工夫した 方法をスタッフ間で共有し、取組んでいく
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした 役割、楽しみごと、気晴らしの支援をして いる	・買い物好きな住人さんには、スタッフと共に食 材の購入に出かける。裁縫好きな住人さん には、ランチョンマットをスタッフと一緒に作 ったり、畑で仕事をしてきた住人さんには野 菜作りの手伝い等、今までの経験を生かした 役割をホームでも担ってもらっている		・できる住人さんに仕事が集中して、黙って 見ているだけの住人さんに対しても、自分の 身の回りのことをスタッフと共にやり、でき る力を失わないようにしていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人ひとりの力と希望にあわせて、買い物に行ったときは、自分の欲しい物を購入し、自分で支払う事ができるようにしている。できるだけ外食も自分で支払いができるよう見守っている		・財布の保管，管理が難しく、全員ではないが、その時その時で自分の欲しい物を買ひ、自分の財布からお金を支払う事ができるよう、個に合った取り組みをしていく
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・その日の住人さんの希望に、できるだけ応じるようにしてはいるが、実際にはスタッフの人数等で、充分とはいえない。今まで利用していた美容院へは積極的に出かけ、楽しんで外出できている		・買い物に出かけることが多く、外出，外食等は充分できていない。楽しみや喜びを持って、また季節の移り変わりや住み慣れた地域とのつながりを大切にするためにも、一人ひとりの状態に合わせた外出を行っていく
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・本人が行きたいと思う場所は、予め本人，家族と相談し、出かけることができるよう計画しているが、全員とまではしていない。個人の希望を尊重して、叶えられるようにスタッフ間で調整している		・その日の突然の申出に、ホーム側で対応できない事が多い。本人と日頃話し合っでどのような外出支援が、本人の望みで、どのように実現していくか検討していく
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に、暑中見舞いや年賀状，手紙の返事，頂き物のお礼等、必要に応じてスタッフと共に書くようにしている。もらった葉書はファイルし、何時でも見られるよう大切にしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・できるだけ訪問された方と、のんびり過ごして頂けるよう、居間を自由に開放している。また、おもてなしの準備等、スタッフと共に行い、気兼ねなく過ごしてもらえるようにしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・どのような行為が身体拘束に当たるかについて、具体的な事例で話題とし、日々のケアの中で行われていないかを確認し合うようにしている		・毎月のミーティング時に、毎回話題に上げ、日々のケアの中で、身体拘束が行われていないか振り返っていくようにする


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・食堂が全体を見わたせる位置となっており、常時一人は居るようにして、住人さんの行動をまずは見守っている。落ち着かないときは、声を掛けたり一緒に付いて行く等している</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>・住人さんの居場所に常に注意をし、誰がどこに居るのか、どんな様子なのかを把握している。夜間は、住人さんの生活に合わせて巡回し、安全に過ごせるようにしている</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>・住人さんの今の状況に合わせて、管理するようにしている。食事の準備時、自然に包丁を保管場所に取りに行くことがあり、生活する力を大切にしていける管理方法を随時話し合っている</p>	<p>・居室内にあるもので、充分注意を必要とする物品がある。本人と話し合っ保管場所を決め、安全に使用できるようにしていく。共有部分にある洗剤等も状況に合わせて、保管方法を考えていく</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>・一人ひとりの住人さんの状態から考えられる事故が、どのようなものであるのか検討し、それを防ぐためには、どのように取り組んでいくのか話し合い実践している</p>	<p>・安全に歩行するために必要な手摺の設置、滑らないための履物の工夫等をしていく。ヒヤリハットの記録、事故報告書を全員で検討し、原因と今後の予防対策について話し合っていく</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>・救急救命法の講習を受け、急変時、事故発生時等の行動が適切にとれるようにしている。夜間や急変時のマニュアルを作成し、スタッフ間で常に理解している</p>	
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・1ヶ月に1回自主点検を行い、ホーム内の整理整頓に心掛けています。火災や地震時のマニュアルを作成し、安全に住人さんの避難誘導が、何時でもできるようにしている</p>	<p>・法人内で避難訓練に参加しているが、消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等、定期的に行っていく</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・外に一人で出てしまうことを危惧される家族には、行動を見守り付き添うことで、生活を抑制せずに暮らしていくことが、本人の意欲を維持していくことになることを話している		・起こり得るリスクが、住人さんの状態の変化に対応できるよう、スタッフ間で話し合い家族にも話していく
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックを毎日行い、少しでも体調に変化の見られたときは、必要に応じ早めにかかりつけ医に受診する。常時スタッフ間で、細心の注意観察を行い、情報交換している		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・健康観察のファイルを作成し、今、服用中の内服薬をスタッフが把握できるようにしている。服薬内容に変更があったときは、状態の変化を観察し記録をとり、必要時はかかり医に相談する		・全ての住人さんの内服薬の種類、内容、副作用等を、全スタッフが理解できるようにしていく。変更があったときは、確実に申し送っていく
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便チェックを行い、一人ひとりのパターンを把握し、薬に頼らないで自然な排便に心掛ける。食材を工夫したり乳製品を取り入れたり、また、できるだけ体を動かすようにしている		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の口腔ケアを見守り、介助で行っている。義歯の洗浄にも心掛けている。1ヶ月に1度、歯科衛生士の口腔ケアを受け、指導助言を受けている		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日全体を通して、一人ひとりの食事がどの程度摂れているか、おおよその量を意識して食事をし、必要時には他の食材で補っている。食べ辛いときは形態を買え対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症マニュアルを法人内で作成し、スタッフ間で共有し予防に努めている。外出時のマスク着用、手洗い、うがい、食事前排泄後の手洗いは見守りの中で徹底している		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板、台拭き、コップ類は、漂白消毒し、キッチン、冷蔵庫内の清潔に心掛けている。賞味期限を厳守し、必要に応じて冷凍保存している		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・ホーム入口に椅子を置いたり、プランターを置いて明るい出入り口のようにしている。玄関にはベンチがあり、一息ついたり、自分のペースで履物を替えることができる		・住人さんと共に、季節の花を育てたり手入れをしたりができるように取組んでいく。自由に行き来ができる畑を利用して、野菜作りが行えるようにしていく
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋に引きこもらず、住人さん同士が共におしゃべりをしたり、新聞、雑誌を読んだり、お茶を飲んだり、くつろげる共有空間としての食堂、居間になるようにしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居間のソファで、仲の良い住人さん同士がおしゃべりをしたり、お茶を飲んだりができるようにしている。また、ベランダにある縁側では、一人でものんびりひなたぼっこができる		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・入居前の説明時に、できるだけ今までの生活が ホームでも維持できるよう、愛用の家具、食器等 を持参してもらっている		・住人さんの生活の様子や状態に合わせて、最も 安心して暮らせる居室を、スタッフ、家族と相談 しながら作っていく
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・ホーム内の温度調節はこまめに行うが、できる だけ自然に合わせた生活を送るようにしている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・安全にホーム内が移動できたり、迷わずトイレ や自室が使えるよう、一部、表示はしている。基 本的にわかり辛い住人さんとは、共に行動するよ うにしている		・安全に移動できるための手摺や、何時でも休む 事のできる椅子や場所等、住人さんのその時の状 態に合った環境整備に取り組んでいく
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・行動の失敗や混乱の原因がどこにあるのか、ス タッフで話し合い、わかり辛い時には表示をし たり、できるだけ自分から動くことができるよう 、一緒に行っている		・住人さんのその時の状態で、必要があれば随時 整備していき、失敗を防ぎ自分から心配なく動け るようにしていく
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・日当たりを利用して、ベランダを活用した食事 をしたり、縁側でおしゃべりをしたりと、住人さ んが楽しめるようにしている。玄関前の椅子で、 自由にくつろげるようにしている		・好きな植物を育てたり、昔から馴染んだ野菜作 りをしたり、建物のできるだけ近くで活動ができ る環境作りに努めていく

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居前にご家族よりどのような生活をしてみえたかを聞き、ホームに入居しても、その生活スタイルが継続できる様にしている。買い物、外出、外食、散歩等、スタッフと自然に出かけられる様にしている。